

議論の場に見られるturn-takingとその周辺

—日本語母語話者と韓国人学習者の場合—

李 善雅

キーワード 議論の場、turn-taking、相手配慮、日本語母語話者、韓国人学習者

1. はじめに

我々が日常何気なく行っているturn-taking^{注1}は、会話の円滑な進行と深く関わっている。このように会話におけるturn-takingの重要性が注目されはじめ、日本語母語話者を対象にした研究（山崎・好井1983、西原1991、新井1995、初鹿野1998、牧野2000等）、日本語母語話者と日本語学習者を比較した研究（小室1993、小室1995、俣野1996等）、日本語の会話と他の言語とを比較した研究（内田1999、金2000等）など、多くの研究がなされてきた。

本稿では、議論の場に見られるturn-takingについて、日本語母語話者同士の会話と韓国語母語話者同士の韓国語による会話を比較すると共に、韓国人学習者の日本語による会話も分析対象に入れて考察する。

2. 研究方法と研究目的

2-1. 対話資料

本稿では、20～30歳代の男性大学院生である日本語母語話者（以下、Nと表記）10人と韓国人学習者（以下、Kと表記）10人を対象に、初対面同士のペアをつくって、ディベート形式のロールプレイを用いて収録した会話^{注2}を分析対象とする。韓国人学習者の日本語学習歴は、3年以下が1人（K4）、他の9人は最小5年、最大10年8ヶ月である。日本滞在経験は、1年以下が3人（K2、K4、K5）、3年以上が7人（K1、K3、K6、K7、K8、K9、K10）である。被験者に渡されたロールカードの内容は、次の中の一つである。

表1 ロールカードの内容

トピック 1	A:「郷に入っては郷に従え」に賛成 (以下、1 A) B:「郷に入っては郷に従え」に反対 (以下、1 B)
トピック 2	A:大企業より自分のやりたいことができるところで働きたい (以下、2 A) B:就職するならどちらかという大企業がいい (以下、2 B)
トピック 3	A:結婚した女性の社会進出に賛成 (以下、3 A) B:結婚した女性の社会進出に反対 (以下、3 B)

一回目は、韓国人同士(韓国語で話す)、日本人同士で、二回目は、日本人と韓国人学習者で会話をしてもらい、合計20の会話を得ることができた。

2-2. 分析対象

turn-takingが起きている周辺を図式化すると次の3つのステップが考えられる。

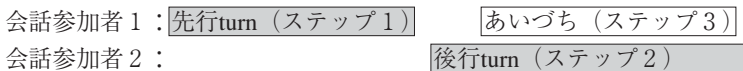


図1

先行turnがステップ1とすると、それに続く形、または割り込む形で現れる後行turnがステップ2であり、turn-takingが起きてから初めて現れるあいづちがステップ3である。このステップ3のあいづちは、今まで話し手であった会話参加者1が聞き手にまわった証拠であって、新しい話し手となった会話参加者2にとっては、turn-takingが無事に成功したことを意味する。例えば、次の例1でN3がN4の発話に割り込んで反対の意見を述べ始めたとき、N4は自分の話を中止し、すぐにturnを譲って「あー」とあいづちを打っている。N4はN3を話し手として認めることでN3に配慮していると考えられる。また、例1でN4が割り込みではなく相手のturnが終わったと思われるところでturn-takingをしているが、その後でN3がステップ3のあいづちを出している。このあいづちも新しく話し手となったN4にturn-takingの成功を知らせると共に話を促進させる効果があるように思われる。

例1

N3 (2 A): あの 大きいところはね あの 頭かたいですよ
 N4 (2 B): うん でも実際自分が 企業

N 3 :	新規ベンチャーやれるのはやっぱりこれからの会社	
N 4 :	あー	あーあー
N 3 :	ですからね	うん
N 4 :	うーん 大きいところであれば	自分がやりたいこと

本稿では図1で示した3つのステップの中で、後行turn（ステップ2）の開始部分に焦点をあてて考察を行う。分析対象にするturnは、本題に入ってから会話参加者が自ら自発的に始めるturnに限る。相手に指名されて、または質問に対し答えるというturnは除く。すなわち、聞き手が現在の話し手のturnを積極的に取るturn-takingを分析対象にする。現在の話し手が聞き手に発話を促したり問い掛けたりしてturnを与える・渡すといったturn-yieldingは分析の対象外とする。^{注3}

2-3. 研究目的

互いに異なる意見を持っている二人が議論をするという状況において、相手に対する配慮は常に求められるものであり、turn-takingの際も例外ではない。例1のN3のように、相手の話に割り込んでturnを取るときはもちろん、N4のように相手のturnが終了したと思われるところでturnを開始するときも円滑なコミュニケーションの進行や、円満な人間関係の維持のために相手配慮は必要だと考えられる。

初鹿野（1998:159）は、テレビの討論番組とインタビュー番組における発話turnの交代時に現れるテクニックを分析した結果、相手の発話中で自らturnを開始する際に見られるテクニックには次のようなものがあったと述べている。

- ① turn交代として機能するディスコース・マーカーによって始める。
例 「だから」「あ」「いや」など
- ② 指示詞などにより、前のturnの発話に言及することによって始める。
例 「それは」「そんなことはない」「おっしゃる通りですけども」など
- ③ 前のturnを発話している人、またはturnの交代に権限のある人（司会者など）の名前または敬称を呼ぶことで始める。
- ④ ①～③のような発話がなされずに、いきなり言いたいことを言うことで始める。
- ⑤ あいづちをうつことで、発話権を求めていることを相手に知らせ、turnを始める。

初鹿野(1998:159)は、上にあげた五つのテクニックの中で、①と②のテクニックは、turn交代としての機能とともに、相手の発話中に発話を始めるという相手に対する妨害とも解釈される可能性のある行為をやわらげ、人間関係をスムーズにする機能を持っていると述べている。

①で言うディスコース・マーカーとは、会話の流れの中で、会話の内容理解を助けるためのもの、会話者間のやりとりをよりスムーズにするためのもの、会話者間の人間関係を円滑にするためのものなど、ある種の談話の中の情報を標す(マークする)ものを言う(西野1993:89)。例えば、「でも」「で」「だから」「あの」「あ」「いや」「じゃあ」(西野1993、初鹿野1998)などがそれである。そして、②にあげられている例「それは」「そんなことは」「～という点では、おっしゃった通りだと思うんですね」などでturnを始めることは、turnを始めた発話者が前の発話の指示されたところについて自分の意見を言うという立場を明確にすることで、この後に続く発話を関連付け、同時に、発話の重なりが引き起こす可能性のある否定的意味をやわらげる機能を果たしている、と初鹿野(1998:152)は述べている。

本稿では、これらの二つの要素、すなわち(1)ディスコース・マーカーと(2)直前にきた相手のturnの内容に対する反応やコメントがturn-takingの際、どのような言語表現で現れ、どのような働きをするのかについてさらに詳しく調査することを目的とする。先行研究では、主に日本語母語話者同士の会話や日本語学習者の日本語による会話が分析されており、韓国語母語話者同士の韓国語による会話を分析対象に、上にあげた二つの要素(1)と(2)について調査した研究は、管見の限りではまだなされていない。本稿では、日本語母語話者同士の会話だけでなく、韓国語母語話者同士の韓国語による会話や日本語母語話者と韓国語学習者との日本語による会話、これらの三つの場面に見られるディスコース・マーカーと直前にきた相手のturnの内容に対する反応やコメントについて考察する。

初鹿野(1998)は、発話者が話を続けているとき、その発話に重なって、または、発話が話者の息継ぎなどで区切られた瞬間に、次の話者がturnを取ろうと試みている発話を分析対象としている。しかし、本稿では、会話参加者が自発的に始めるturnであれば、例1のN3のように、相手の話に割り込んだturnも、例1のN4のように相手のturnが終了したと思われるところで開始するturnも分析対象とする。

表記の簡素化のため、以下、日本語母語話者同士の日本語による会話を日本語母語会話、韓国語母語話者同士の韓国語による会話を韓国語母語会話、そして日本語母語話者と韓国語学習者との日本語による会話を日本語接触会話と記

す。

3. 調査結果

日本語母語会話の場合も韓国語母語会話の場合も、そして日本語接触会話の場合も、2-3. で示した二つの要素(1)ディスコース・マーカースと(2)直前にきた相手のturnの内容に対する反応やコメントをうまく用いることで聞き手に配慮しながらturnを開始している。

上記の二つの要素を利用し、聞き手に配慮しながらturnを開始する次の3つのパターンが本稿の対話資料である議論の場で見られた。

- パターン1 ディスコース・マーカースでturnを開始
- パターン2 直前にきた相手のturnの内容に対する反応やコメントでturnを開始
- パターン3 ディスコース・マーカースと直前にきた相手のturnの内容に対する反応やコメントでturnを開始

この3つのパターンに関して、日本語母語話者の場合と韓国人学習者の場合に分けて考察していく。

3-1. 日本語母語話者の場合

3-1-1. ディスコース・マーカースでturnを開始

日本語母語会話の中では、次の例2に示した「うーん でも」以外に「うーん」「で」「で まー」「あのー」「うーん ま」「えー」「まー」「ま でも」「だから」等も観察された。これらディスコース・マーカースの中でいわゆる逆接と呼ばれる「でも」類の使用は、被験者10人の中2人(N8・N10)にしか見られない。これは、互いに異なる意見を持っている二人が議論をするという状況の中で、冒頭からの相手との対立を避けていると考えられるのではないだろうか。

このように、ディスコース・マーカースでturnを開始することは、「これから私が話しますよ」というシグナルを相手に送ることで、turnの円滑な移動を助けると考えられる。ディスコース・マーカースによるこのようなシグナルの発信は、会話のやりとりをスムーズにし、聞き手に配慮しながらturn-takingをする一つの方策と考えられる。

例 2

N 7 (3 A):	働けるんだったら働いた方が色々おもしろいこともあるし
N 8 (3 B):	はい
N 7:	子供もおもしろいこと見つかるかも (笑)
N 8:	(笑) うーん でも やっぱり
N 7:	
N 8:	こう 親 親がこう そばにいてちゃんとしつげとかしていかないと

韓国人学習者との会話の中では、次の例3に見られる「だけど」以外にも「あのー」「あのね」「だから」「うーん だけど」「うんー ま」「あー はい」「はい」「うーん」「えー」「あー」「じゃ」「うんー まーね」などのディスコース・マーカーを使用している。これらディスコース・マーカーの中でいわゆる逆接と呼ばれる「だけど」類の使用は、被験者10人の中1人(N7)にしか見られない。

例 3

N 7 (3 A):	うん
K 6 (3 B):	一人の人間として育てて それからある程度自立 できて
N 7:	うん
K 6:	から ま 仕事を持つとか で そういうふうにするのが
N 7:	うん だけど 例えば
K 6:	やっぱり結果的には ま いいんじゃないかなーと
N 7:	別に一日ずっと24時間保育園にいるわけじゃないし ね 夜とか
K 6:	うん

3-1-2. 直前にきた相手のturnの内容に対する反応やコメントでturnを開始

次の例4のように、直前にきた相手のturnの内容に対する何らかの反応やコメントでturn-takingをすることは、前のturnとの関連性を示すことができ、円滑なturn-takingを助けると考えられる。

例 4

N 7 (3 A):	うん	うん	
N 8 (3 B):	僕は今一人暮らしなんですけど	やっぱり学校来て	家に
N 7:	うん	あー	(省略)
N 8:	帰って	家事とかする	(省略) そういふの大変だったんで
N 7:			うん
N 8:	やっぱり	こう 得意	得意分野じゃないかもしれないんですけど

N 7 : おー
 N 8 : ま 分担して やっていくのが なんか 合理的かなとは
 N 7 : **確かに 家帰ってね できてるとうれいし**
 N 8 : 思うんですよね ***^{註4} えーえー
 N 7 : **楽なのかな** **うれいし** うん 働いてる かわいそうだからね
 N 8 : (笑)

韓国人学習者との会話の場合も日本語母語話者同士の会話の時と同様、次の例5のように、K1の「家庭作りは人生をかけて専念できるくらいの価値がある」という内容に対し、「やっぱり本当にそれくらい重要だっていうのは僕も思うときもある」というふうにコメントすることでturnを開始している。このように、相手のturnの内容に対する反応やコメントでturnを開始することは、相手の話をちゃんと聞いて理解しているということを示すことができると共に、さらに相手のturnの内容との関連性を保ちながらスムーズにturn-takingをすることもできると考えられる。

例5

N 4 (3A) : うん うんうん
 K 1 (3B) : 家庭に専念して その家庭作りというのも 家族
 N 4 : うん 分かります分かります うん 大事
 K 1 : 家庭作りというのも 一つの
 N 4 : ですよ うん はいはいはい
 K 1 : 人生をかけて 専念できる くらいの価値はあ
 N 4 : そうですね たしか
 K 1 : るという えー そういう面から見るとちゃんと
 N 4 : **やっぱり 本当にそれくらい**
 K 1 : うん してもいいんじゃないかと (笑)
 N 4 : **重要だっていうのは 僕も** **思うときもあって** うん
 K 1 : えーえーえー うんうん
 N 4 : **やっぱり ね 仕事 帰ってきて いちばん落ち着く場っていうか**
 K 1 :
 N 4 : **作ってくれていたら** **すごく安心して仕事にも行けるし**
 K 1 : はいはい
 N 4 : **安心して子供も任せられるし**
 K 1 : はいはいはいはい

3-1-3. ディスコース・マーカーと直前にきた相手のturnの内容に対する反応やコメントでturnを開始

これは、まずディスコース・マーカーで「これから私が話す」というシグナルを相手に送り、それから相手のturnの内容に対する反応やコメントで前のturnとの関連性を示しながらturn-takingをする場合である。日本語母語会話の中で見られる、相手のturnの内容に対する反応やコメントの前に現れるディスコース・マーカーには、次の例6の「あー ま」以外に「あー」「えー」「あの一 ま」「でも ま」「ま」「や」「いや (いや)」などが観察された。これらディスコース・マーカーの中でいわゆる逆接と呼ばれる「でも」の使用は、被験者10人の中1人(N1)にしか見られない。これは、3-1-1で述べたのと同様、議論をするという状況の中で、冒頭からの相手との対立を避けようとする話し手の意図が窺えるのではないかと思われる。

例6

N7 (3A): 女性 仕事が出来るんだったら ね 外で仕事した方がいいかも
N8 (3B):

N7: しれない 家にずっといるよりも (笑)

N8: あー (笑) あーま そうかも

N7: うん

N8: しれないんですけど やっぱり でも 子供が ね できちゃったら

N7: あ そうね

N8: やっぱりちゃんと 奥さんとかにやっぱり母親と子供は

N7: うん うん

N8: 一緒に 父親でもいいかもしれないんですけど どっちかの親が

N7: うん うん

N8: こう 一緒にいて スキンシップっていう感じを やっぱり

N7: うん そう だけどね

N8: とった方がいいと思うんですよ 僕は

韓国人学習者との会話の中では、相手のturnの内容に対する反応やコメントの前に現れるディスコース・マーカーに、次の例7の「ま」以外にも「うんー」「うん え じゃ」「うん だけど え」「あ」「えー」「あー あ」などが使われている。これらディスコース・マーカーの中でいわゆる逆接と呼ばれる「だけど」の使用は、被験者10人の中1人(N7)にしか見られない。

例7に見られるN2は、こういったディスコース・マーカーでturn開始のシグナルを送ってから、直前のturnの内容に対するコメントでturnを開始すること

で、聞き手に配慮しながら円滑なturn-takingを図っていると考えられる。

例 7

N 2 (3 B):	はーあー
K 3 (3 A): うん 家でべたっとしてるお母さんよりはね	なんとなく
N 2: まー	あー
K 3: カッコウつけてる場合じゃないんですけど	ほんとそんな
N 2:	あー
K 3: 感じもするし 何よりもけっこう生き甲斐っていうか	けっこう
N 2: うん	うん
K 3: 毎日が充実してて そんなの見てると	うん 一緒に勉強して
N 2:	あー またしかに うーん 何かね
K 3: よかったなー	っていう気持ちかね
N 2: あんまり家にずっと	こう いてもね たぶん子供に 何かお母さん
K 3:	
N 2: がストレスを	発散させるとかというんだったら ちよっと
K 3:	うん そうですね
N 2: 問題だと思えますけど	うん 何か僕なんかは 小さい頃から
K 3:	うん
N 2: お母さんがずっと家にいて	ま ときどきなんか あの 内職を
K 3:	

3-2. 韓国人学習者の場合

3-2-1. ディスコース・マーカーでturnを開始

韓国語母語会話の中でも、日本語母語会話の場合と同様に、ディスコース・マーカーによって行われるturn-takingが多数現れた。次の例8に見られる「음ー」以外に「근데」「예」「그래서」「엄ー」「어」「아ー음ー하지만」なども観察された。これらのディスコース・マーカーは、先ほども述べたように、これからturn-takingをするという予告をする働きを持っており、それによって今まで話し手だった相手が聞き手に気持ちを切り替える余裕を与えることができる。その結果、ディスコース・マーカーは無理のない（強引ではない）turn-takingを助けると考えられる。

これら韓国語におけるディスコース・マーカーの発音記号と日本語訳を次に示す。^{注5}

음	[um]	ううん
예	[je:]	はい、ええ

어 [ɔ]	ああ、やあ、まあ
엄 [ɔm]	음 [um] と同様 ^{注6}
아 [a]	あ、あつ、ああ
그래서 [kureso]	それで、だから、そこで、そして
근데 [kunde]	ところが、しかし、ところで、さて
하지만 [hadʒiman]	しかし、けれども、だけど、でも

例 8

K 3 (1 A):	음
K 4 (1 B):	아직 일본사람 아는 사람도 별로 없고 주로 저는 식당이
K 3:	음 음
K 4:	라던지 지하철 탈 때라던지 서점에서 밖에 사람을 접할 기회가
K 3:	음- 또 하나 얼마전에 한 며칠 전에 통역을 나갔는데요
K 4:	없는데 음-

これらディスコース・マーカーの中、例 [je:] と共に一番多く使われている 근데 [kunde] について説明しておく。この 근데 [kunde] とは、그런데 [kurunde] の縮約形であって、次のように異なる場面で使うことができる。^{注7}

- ・ 事件は簡単に解決すると思われていた。ところが一年たった今もなお、難航を続けている (사건은 간단히 해결될 것으로 생각되었다. 그런데 일년이 지난 지금도 아직 난항을 계속하고 있다)
- ・ ところで, 君の考えはどうなんだ (그런데 자네 생각은 어때?)

このように 근데 [kunde] は、하지만 [hadʒiman] とは違って純粋な逆接のマーカーとは言えない。근데 [kunde] の後に続く内容を聞かない限り逆接かどうか判断できないのである。本稿の分析場面である議論の場の中では、このような 근데 [kunde] の特徴がうまく生かされているように思われる。本稿の会話資料に現れている 근데 [kunde] は、そのほとんどが「ところが」または「しかし」の逆接の意味で使われているが、純粋な逆接の意味を持つ 하지만 [hadʒiman] の代わりに、근데 [kunde] が多く用いられているのである。하지만 [hadʒiman] は、10人中1人 (K10) しか使用していない。このことから 근데 [kunde] は、意見が対立する議論の場において、冒頭からの相手との対立を避け、人間関係の調節という働きをしていると考えられるのではないかと思われる。근데 [kunde] は、10人中5人 (K 2・K 3・K 5・K 6・K 8) が使用している。

韓国人学習者は、日本語接触会話の中でもディスコース・マーカーを使用している。次の例9に見られる「うん でも」以外にも「うーん で」「うんー」「でもね」「うーん」「ま」「いや」「や でも」「でも」などが観察された。これらディスコース・マーカーの中でいわゆる逆接と呼ばれる「でも」類の使用は、被験者10人の中3人（K2・K4・K8）にしか見られない。これは、日本語母語話者の場合と同様、発話の開始からの相手との対立を避けようとする話し手の意図が表れている現象であると考えられる。

初鹿野（1998：147）は、学習者が行うturnの交替が不自然な原因として、学習者の発話が不適切な「じゃあ」で始められたり、「でも」が過剰に使用されたり、また、逆にこのような発話が全く現れなかったりという例を挙げている。しかし、本稿での韓国人学習者の場合は、「でも」の過剰な使用も不適切な「じゃあ」も見られず、ディスコース・マーカーの使用も数多く観察されている。初鹿野（1998）の場合は、学習者の日本語レベルが明示されていないので本稿とは比較できないが、本稿の被験者である上級日本語学習者の場合は、うまくディスコース・マーカーを使用していると言えよう。

例9

N1（3A）：どうだったのかな 小学校の時までは母親がいたかな うん

K4（3B）：

N1：やっぱり無理かな 子供が小さいときには うん でも大学の先生とか

K4：

N1：でも 結婚してて 子供いる人ってたくさんいますよね

K4：

うん でも

N1：

あー

K4：大学の先生なら あの 時間を利用するのが 便利じゃないですか

N1： けっこう自由に うん

K4： 自由に

3-2-2. 直前にきた相手のturnの内容に対する反応やコメントでturnを開始

韓国語母語会話である例10の会話例の中で、turn-takingが起こった網掛けの「그거야 그렇지만」から日本語に訳すと、「それはそうだけど ある 先も申し上げたんですが郷に入っては郷に従えはそれは当たり前だけど それは法であって慣習やマナーはちょっと少し えー 生活上で必要な部分であって」になる。K2は、「그거야 그렇지만 (それはそうだけど)」というふうな前のturnの内容に対して簡単にコメントしてから自分の言いたいことを言うというturnの開始の仕方を取っている。このような直前にきた相手のturnの内容に対する

反応やコメントでturnを開始することは、前のturnと後のturnをつなぐ役割を果たし、聞き手に配慮しながら円滑なturn-takingをするのに役立つと考えられる。

例10

K 1 (1 A):	될 수 있으면은 관습이나 매너 같은 거 좀 지키면서 생활하는게
K 2 (1 B):	
K 1:	편할 것 같다는 예 예
K 2:	뭐 그거야 그렇지만 어떤 아까도 말씀드렸지만
K 1:	예 예예
K 2:	로마에 가면 로마 법을 따르라 그건 당연하지만 그건 법이고
K 1:	아 예
K 2:	관습이나 매너는 좀 약간 예 생활상에 필요한 부분인데

韓国人学習者の日本語接触会話の場合も同様で、次の例11に見られるように、相手のturnの内容に対する反応やコメントでturnを開始することで、無理のないturn-takingを図っている。

例11

N 5 (3 A):	好きな女性にも あの 同じような 機会として あの あの
K 5 (3 B):	うん
N 5:	あった方がいいとは僕は思うんですよね やっぱ それは彼女に
K 5:	あー
N 5:	とつてもすごくいい刺激になるし ぼく 僕だけじゃなくて
K 5:	あー
N 5:	同じようにいろんな人と 外に出て会って それがビジネスで
K 5:	うん あー
N 5:	あったり 仕事であったり あの ま どっかの交流会であったり
K 5:	うん
N 5:	いろんな場面 あるとは思うんですけど うん
K 5:	それは あの はい ま
N 5:	うん うん
K 5:	やっぱり あの 長所というか そういうぶんはあると思いますけど
N 5:	だから うんうん
K 5:	ね あるとおもいますね でも やっぱり あの 女性の

でいわゆる逆接と呼ばれる「でも」の使用は、被験者10人の中1人（K2）にしか見られない。

例13

-
- N7 (3A): 例えば別に一日ずっと24時間 保育園にいるわけじゃないし
- K6 (3B): うん
-
- N7: ね 夜とか日曜日は親と一緒にだし 朝も夜も 一緒に寝て
- K6: あー そう
-
- N7:
- K6: ですね でもですね こう に こう なんていうんでしょうかな
- N7: うん
- K6: で 私たちですね社会生活 ま たとえ学校行ったら で ほとんど
- N7: うんうん
- K6: 学校の生活が もう ほとんどですよ 家に帰ってもあんまり
- N7: うん
- K6: こう なんていうんですかな そんなに喋らないでしょう 家族
- N7:
- K6: でやっぱり こう あの 朝から晩まで ずっと あの 親といて
- N7:
- K6: で やっぱり あの 親の ことで こと見て ちゃんと
-

4. 考察

日本語母語会話と韓国語母語会話、そして日本語接触会話に見られるturn-takingについて調べた結果、次のような特徴が観察された。

まず、ディスコース・マーカー^{注8}と直前にきた相手のturnの内容に対する反応やコメントをうまく用いることで会話のやりとりをスムーズにし、聞き手に配慮しながらturn-takingをしていることが観察された。これを図式化すると次の図2のようになる。

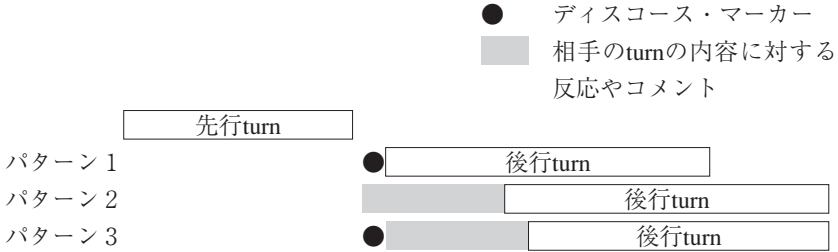


図 2

パターン 1 から 3 に見られる●や■は、先行turnと後行turnの衝突を和らげるクッションのような、又は先行turnと後行turnをつなぐ掛橋のような役割を果たし、会話のやりとりをスムーズにすることで円滑なturn-takingを助けると考えられる。このような3つのパターンは、日本語母語会話と韓国語母語会話、そして日本語接触会話に共通して現れる。

そして、日本語のディスコース・マーカーの中で、いわゆる逆接と呼ばれる「でも」類や「だけど」類でturn-takingをした延べ人数は、日本語母語話者の対日本人のときが3人（N1・N8・N10）、対韓国人学習者のときが1人（N7）であり、韓国人学習者の場合は3人（K2・K4・K8）であって、両者ともに少なかった。韓国語母語会話の場合も同様に、純粋な逆接である하지만 [hadʒiman] でturn-takingをした人は1人（K10）しかいない。すなわち、互いに異なる意見を持っている二人が議論をするという状況の中で、冒頭からの相手との対立を避けようとするのは、日本語母語話者の場合も韓国人学習者の場合も共通していると言えるのではないと思われる。

また、直前にきた相手のturnの内容に対する反応やコメントは、そのほとんどが先行turnの内容に理解を示したり、同意を示したりするものであることに関して、日本語母語会話と韓国語母語会話、そして日本語接触会話において共通している。しかし、その内容から見ると、次のような相違点が見られる。日本語母語話者の場合は、対日本語母語話者のときも対韓国人学習者のときも、先行turnの内容に理解を示したり、同意を示したりする内容に具体的な例（場面）をあげているのが目立つ。すなわち、「そうですね」のような単純な共感表示ではなく、例5の「やっぱり 本当にそれくらい重要だっていうのは 僕も 思うときもあって うん やっぱり ね 仕事 帰ってきて いちばん 落ち着く場ってうか 作ってくれていたら すごく安心して仕事にも行けるし 安心して子供も任せられるし」のように、具体的な内容をあげている。一方、韓

国人学習者の場合は、韓国語でも日本語でも、先行turnの内容に理解を示したり、同意をしたりするとき、日本語母語話者のような具体例より「そうですね」、「それはそうだけど」、「それは事実だけど」のような短くて簡単な表現を用いている。しかし、日本滞在経験が3年以上であるK1・K3・K6・K7・K8・K9・K10のうちK1・K6・K7の3人は、韓国人と韓国語で話すときに比べ、日本人と日本語で話すときの方が先行turnの内容に理解を示したり、同意をしたりするときの内容が少し具体的になる傾向が見られた（李2001 a、李2001 b）。

議論をするという場面において、上記のようにディスコース・マーカーでturnを開始したり、相手の言ったことに理解を示すことでturnを開始したりすることは、相手に配慮しながらスムーズにturn-takingをするのに効果があるように思われる。

本稿では、議論の場に見られるturn-takingの中でも、会話参加者が自発的に始めるturnでありながら聞き手配慮が見られるturnだけを対象に分析を行った。turn-takingの全般に関する分析は今後の課題としたい。

注

- 注1 本稿では、turnを「話し始めてから相手が話し始めることによって自分の話が終わるまでのひとまとまり」と定義し、turnを取得していく過程をturn-takingとする。
- 注2 N1からN8、そしてK1からK8の会話資料は、1999年11月から2000年2月の間に収録したものである。N9とN10、そしてK9とK10の会話資料は、2001年7月に収録したものである。
- 注3 小室（1995）は、turnの交替をturn-takingとturn-yieldingの二つに分け、それぞれの頻度を学習者と日本人のdiscussion場面で比較している。
- 注4 表記***は、聞き取れなかった箇所を表す。
- 注5 発音記号と日本語訳は、小学館が1993年に初版した『KOREAN-JAPANESE DICTIONARY』に基づく。この辞書に「ええ」「ううん」「ああ」と表記されているのは、本稿で言う「えー」「うーん」「あー」と同じものである。
- 注6 ㅁ [ɔm] は、辞書には載っていなかったが、筆者はこれを음 [um] と同様、「ううん」に訳せると解釈する。
- 注7 次に紹介する例文は、小学館が1993年に初版した『KOREAN-JAPANESE

DICTIONARY』のP239とP249からとってきたものである。

- 注8 ディスコース・マーカーは、「うーん」「で」「あー」「でも」や「あー」「예」「근데」「음ー」のように単独で使われる場合もあれば、「うーん ても」「うーん え じゃ」や「あー 예」「예 근데」のように複数で使われる場合もある。

参考文献

- 新井眞美 1995 「turn-takingへの関わりからみた教室内インターアクションにおける教師と学習者の役割」『日本文化と日本語教育』10号 お茶の水女子大学日本言語文化学会 pp.1-12
- 李善雅 2001 a 「議論の場における言語行動—日本語母語話者と韓国人学習者の相違—」『日本語教育』111号 日本語教育学会 pp.36-45
- _____ 2001 b 「議論の場で使われる「くり返し」について—日本語母語話者と韓国人学習者の相違—」『日本語教育学会春季大会予稿集』日本語教育学会 pp.115-120
- 内田らら 1999 「話者交替が果たす機能とは：メタコミュニケーションからの日英語比較」『第3回社会言語科学会研究大会予稿集』社会言語科学会 pp.102-107
- 金志宣 2000 「turn及びturn-takingのカテゴリー化の試み—韓・日の対照会話分析—」『日本語教育』105号 pp.81-90
- 小室郁子 1993 「中・上級の話しことばの教育—日本語学習者による“discussion”の実態—」『日本語・日本文化研究』3号 大阪外国語大学日本語講座 pp.91-103
- _____ 1995 「“Discussion”におけるturn-taking—実態の把握と指導の重要性—」『日本語教育』85号 pp.53-64
- 西野容子 1993 「会話分析について—ディスコースマーカーを中心として—」『日本語学』12-5 pp.89-96
- 西原鈴子 1991 「会話のturn-takingにおける日常的推論」『日本語学』10-10 pp.10-18
- 初鹿野阿れ 1998 「発話ターン交代のテクニク—相手の発話中に自発的にターンを始める場合—」『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』24号 東京外国語大学留学生日本語教育センター pp.147-162

- 牧野由美 2000 「日本語学習者のためのターン・テーク教育を目指して—大学生の日常会話を資料として—」『日本語教育学会秋季大会予稿集』日本語教育学会 pp.98-103
- 俣野夕子 1996 「接触場面における話者交代」『阪大日本語研究』8 大阪大学文学部日本語学講座 pp.87-106
- 山崎敬一・好井裕明 1983 「会話の順番取りシステム—デスノメソドロギーへの招待」『月刊言語』13-7 pp.86-94
- 李麗燕 1995 「日本語母語話者の会話管理に関する一考察—日本語教育の観点から—」『日本語教育』87号 日本語教育学会 pp.12-24